

7 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく児童生徒の姿を目指している。問題をよりよく解決するために、児童生徒は地域に出かけたり、様々な体験活動を行ったり、多くの人と出会って学び、その過程で実際の社会や日常生活の中で活用できる資質・能力を身に付けていく。そして、自らの生活や行動などを振り返り、一人一人が自分の生き方を考えていく。情報化やグローバル化が進展する社会においては、児童生徒が探究的に学ぶ総合的な学習の時間がますます重要となる。

総合的な学習の時間は、第1の目標を踏まえて、各学校が「目標」や「内容」を定める点が各教科等と異なる点である。このことを踏まえて、以下の点について、検討・改善を図っていただきたい。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためのカリキュラム・マネジメントの充実を

全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、学校における全教育活動との関連を図り、適切に示していただきたい。

《主な確認事項》

【全体計画と年間指導計画】（※次ページ【総合的な学習の時間 全体計画例】参照）

- ☐ 総合的な学習の時間の目標は、第1の目標及び学校教育目標を踏まえたものになっているか。（第1の目標の構成に従って二つの要件を反映させているか）
- ☐ どのような児童生徒を育てたいのか、どのような資質・能力を育てようとするのかなど、地域や学校、児童生徒の実態や特性を考慮した目標が明確に設定されているか。
- ☐ 総合的な学習の時間の目標を踏まえ、内容として「目標を実現するにふさわしい探究課題」と、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つが示されているか。
- ☐ 「目標を実現するにふさわしい探究課題」は、探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしく、横断的・総合的な学習としての性格をもち、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込める課題となっているか。
- ☐ 「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」として、各学校において定める目標に記された資質・能力を、各探究課題に即して具体的に示しているか。（全体計画に記載）
- ☐ 全体計画では、各学校において定める目標及び内容について明記するとともに、学習活動、指導方法、指導体制、学習の評価等についても、その基本的な内容や方針等を概括的・構造的に示されているか。
- ☐ 全体計画と年間指導計画の少なくともどちらか一方に、指導計画を構成する六つの要素が示されているか。
（六つの要素：目標、内容、学習活動、指導方法、学習の評価、指導体制）

【単元計画】

- ☐ 各学校において定める内容をよりどころとして、児童生徒の実態を踏まえ、児童生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとめりとなるように単元を計画しているか。
- ☐ 毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、児童生徒の実態に即して見直しが図られ、単元計画が立てられているか。

【評価】（今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）文部科学省 P114～を参照）

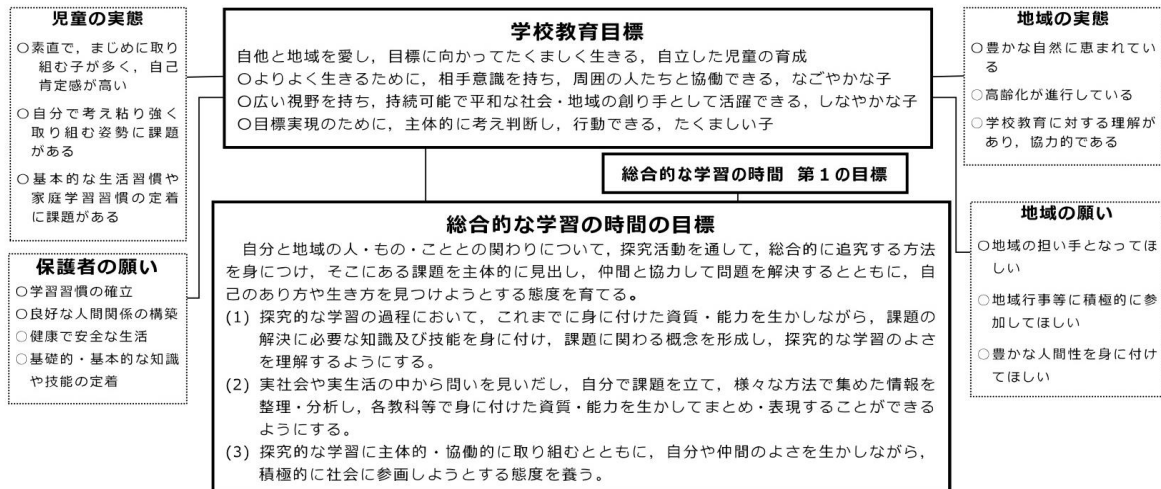
- ☐ 各学校が定めた目標と内容に基づいた評価の観点を定めているか。
- ☐ 各観点に即して実現が期待される児童生徒の姿として評価規準を設定し、指導に生かす評価の在り方について校内で共通理解を図っているか。
- ☐ 評価に際しては、学習状況の結果だけでなく過程の評価の累積がなされているか。
（評価資料例：教師による観察記録、自己評価や相互評価の状況を記した評価カードや学習記録、制作物、ポートフォリオ 等）

【体制整備】

- ☐ 校内の全ての教職員が協力して取り組む体制を整備しているか。
- ☐ 様々な場所での学習活動や多様な学習活動が行えるよう、学習環境を整備しているか。
- ☐ 家庭や地域と連携・協働しながら、多様で幅広い教育力を活用しているか。

【総合的な学習の時間 全体計画例】

事例① ○○学校 総合的な学習の時間 全体計画



総合的な学習の時間の内容						
学年	3 年		4 年		5 年	
テーマ	町づくり		環境		食	
探究課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織		身近な自然環境とそこに起きている環境問題		食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者	
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	知識	地域の人々や地域に住む人々の思いを理解することができる。		高齢者等の思いや願い、暮らしを支援する仕組みを理解することができる。	
		技能	地域に昔からあるものを大切に扱ったり、地域の人々に挨拶をしたりするなど適切に接する。		4R(リデュース・リユース・リサイクル)について、学校や家庭で自分ができることを行う。	
		探究的な学習のよさの理解	地域を大切にしたいという自分たちの思いの姿容は、地域の人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。		食の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。	
	知識及び技能思考力・判断力・表現力等	課題の設定	環境を守るようとする人々の思いや工夫を理解することができる。		家庭科の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。	
		情報の収集	地域を大切にしたいという自分たちの思いの姿容は、地域の人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。		食の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。	
		整理・分析	身近な環境に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てることができる。		食の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。	
	学びに向かう力・人間性等	まとめ・表現	人に聞いたり、図書館や ICT を活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。		多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面や ICT で蓄積することができる。	
		主体性・協働性	集めた情報を比較し、観点ごとに分類し、表などを用いて整理することができる。		いろいろな思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えることができる。	
		自己理解・他者理解	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。		他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	
		将来展望・社会参画	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。		他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	

【学習活動】	【指導方法】	【指導体制】	【学習の評価】
・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。 ・多様な人々と協働して解決する必要がある探究課題を設定する。	・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。 ・学習内容によっては SDGs を意識し、持続可能な社会について考えられる指導の工夫をする。	・地域コーディネーターを中心に地域教材の活用や地域の人々、大学との連携・調整を行う。 ・全職員による指導体制を確立する。	・キャリアパスポートを活用した評価の充実を図る。 ・個人内評価を重視する。 ・発表会（異学年交流も含む）を利用した評価を取り入れる。

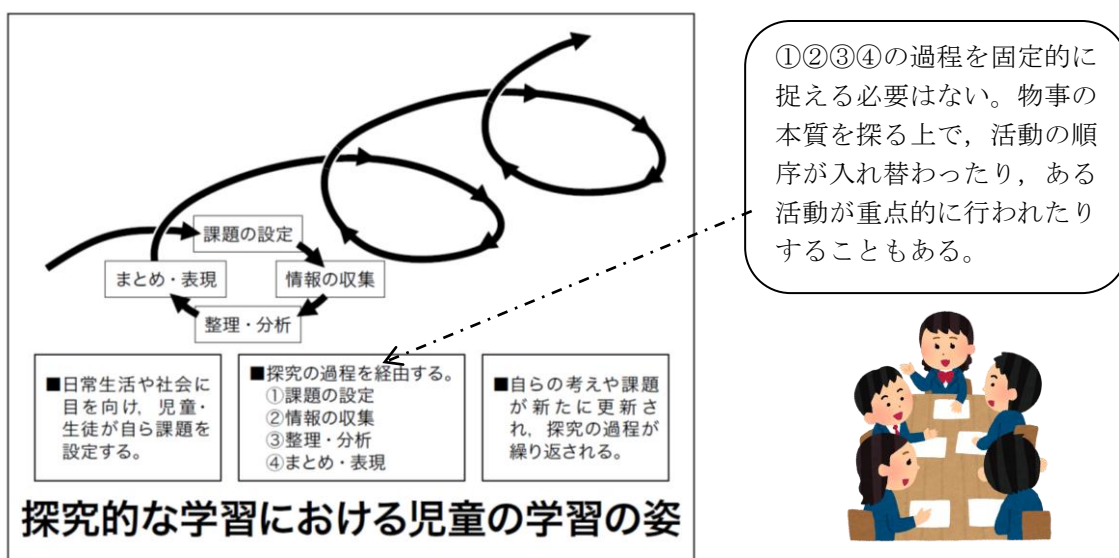
今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編） 文部科学省 令和3年3月より引用

（２）総合的な学習の時間の充実に向けて

総合的な学習の時間では、「学習過程を探究的にすること」と「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」が大切なポイントとなる。

学習過程を探究的にするためには、【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】という学習過程となることが重要である。特に、【整理・分析】では、課題の解決にとって情報を取捨選択したり、順序よく並べたり、書き直したりすることや、整理した情報を比較・分類したりして傾向を読み取ったり、因果関係を導き出したりする活動を十分にとり、思考を深める活動の充実に努めていただきたい。

協働的に学ぶことの意義は、多様な情報に触れること、異なる視点から検討ができること、相手意識や学習のパートナーとしての仲間意識を生み出すことなどである。協働的に取り組む学習活動を行うことで、児童生徒の学習の質を高め、探究的な学習の実現に努めていただきたい。



今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）文部科学省 令和3年3月より引用

（中学校においても同様）

《主な確認事項》

- 単元など内容や時間のまとまりの中で、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し、学習活動内容等や時間を軌道修正しながら学習活動を展開しているか。
- 探究的な学習を実現するための【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】の学習活動が、発展的に繰り返されているか。
- 他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動の充実に努めているか。
- 「考えるための技法」（「比較する」、「分類する」、「関連付ける」等）を活用し、多様な他者と協働してよりよい考えを導き出したり、情報を分析・表現したりする活動の充実に図っているか。
- 教科や特別活動等で育てたい資質・能力との違いを明らかにし、一連の学習活動が探究的な学習となるよう適切に位置付けているか。
- 地域の素材を活用したり、地域の人々と連携協力したりして、体験活動を積極的に取り入れ、それを問題解決や探究活動の過程に意図的・計画的に位置付けるよう留意しているか。
- 体験活動を積極的に取り入れ、横断的・総合的な学習、探究的な学習になっているか。
（体験活動を探究的な活動の手段として取り入れるようにしているか）